



山口県本部版
 NO 295
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 山口県本部
 〒754-0004
 山口市小郡金堀町
 21番の1
 林洋武方
 電話&FAX
 083 (972) 3987

県議選挙 共産2→3へ前進

—下関、宇部、山口—

河合喜代 (山口市区) 見事返り咲き

(当選を喜ぶ河合喜代氏)

10日未明 山口市 河合喜代さんのフェイスブックより)

◆9日開票の県議選挙
 で日本共産党は1議席
 増の3議席へと前進し
 ました。

◇県議選挙別別当選者◇ (定数47)

国民	24	0	1	25 (6)
公明	4	0	1	5 (0)
共産	2	1	0	3 (0)
立憲民主	0	0	0	0 (0)
国民民主	0	0	1	1 (0)
維新	1	0	0	1 (0)
無所属	6	0	6	12 (2)
計	37	1	9	47 (8)

※かっこ内は無投票当選者数

県議選 確定得票

<p>◇下関市区◇ (定数10、選挙確定)</p> <p>当11,548 前原 西原 51 公新① 当10,029 西本 健治郎 46 自派② 当 8,064 友田 有 郎 自派③ 当 7,862 坂崎 久雄 76 自派④ 当 7,212 酒本 哲也 51 無派⑤ 当 6,417 林 商人 48 自派⑥ 当 6,351 高瀬 利也 58 自派⑦ 当 6,242 平岡 望 50 自派⑧ 当 6,085 木佐木 大助 65 共産⑨ 2,486 吉村 繁司 82 無派</p>	<p>◇山口市区◇ (定数6-8、選挙確定)</p> <p>当10,448 吉田 充宏 44 自派④ 当10,203 藤生 幸 40 無派⑤ 当 7,921 合志 栄一 73 無派⑥ 当 7,737 柳田 龍 60 公明⑦ 当 7,406 河合 龍 62 共元② 当 7,000 小山村 克彦 63 無派⑧ 当 6,746 佐田 浩晃 51 自派③ 6,174 鹿見 秀男 52 自派①</p>
<p>◇宇部市区◇ (定数5-7、選挙確定)</p> <p>当13,492 二本 健治 67 自派⑤ 当 7,898 藤野 克 49 公明② 当 7,550 佐藤 秀城 51 無派④ 当 7,358 高井 一 瑛 58 共産③ 当 6,285 藤本 朝男 67 無派① 3,017 宮本 佐々木 信夫 84 共新</p>	<p>◇岩国市・和木町区◇ (定数5-6、選挙確定)</p> <p>当11,024 井崎 寿子 67 共産⑤ 当 8,436 柳原 真夫 38 自派③ 当 7,276 山手 健夫 45 自派④ 当 5,680 藤本 利光 77 自派② 当 5,517 藤本 尚規 66 自派① 4,925 大西 朋子 78 共新</p>

- ◆憲法施行76周年を迎える5月3日は県下で行事が行われます。山口市では二〇二三憲法を守る山口集会が開かれ広島市立大学平和研究所・河上暁弘教授が「憲法九条の理念と試練―ウクライナ危機後の日本と私たちの選択」と題して講演します。
- ◆四月度の同盟県本部の役員会は14日(金)午後1時30分より共産党県委員会が開きます。
- ◆同盟国賠署名は3月末現在で236筆です。
- ◆5月14日(日)は田中サガヨの没後88周年。当日午前10時から下関市豊田町の正念寺で墓参りを行います。

党創立百周年「明るい山口」五回目

山口県の特高警察の特質

今までの先人達は山口県で生まれ育ち東京など他県に出て革命運動に参加された人たちです。これから治安維持法下の山口県で戦前活動された山本利平・山田喜一ら先輩達を紹介します。その前に戦前の山口警察行政の特質について一回分スペースをいただきます。

祖国の眼 大陸の窓

山口県の警察行政は二つの特徴がありました。一つは「祖国の眼」「大陸の窓」です。もう一つは「難波大助事件」の影です。戦前日本は中国や朝鮮を植民地としました。そのため人の行き来は多くなります。そのほとんどは下関から朝鮮釜山に渡るか、中国大連・上海に渡るかまた逆に大陸から下関を通って日本各地に散っていききました。下関は今より遙かに政治的にも経済的にも大都市でした。日本銀行は大阪に次いで三番目に下関に支店を出しました。その警察行政は「祖国の眼」として海外からの影響を食い止め、海外へ犯人を逃がさないため重視されました。特高警察は治安維持法ができから全国的に整備されますがそれ以前に山口県では大正2年（一九一三年）東京・大阪に続いて「高等警察係」という思想警察が設置されます。また特高警察の最盛期には11

3名という大部隊で中国語、英語、ロシア語の通訳を抱え朝鮮人の捜査もあり「蟻も通さない」最強の特高とされていました。

天皇を撃つた男 難波大助の影

もう一つ重要なのは難波大助事件です。大正12年、東京虎ノ門で当時摂政宮（天皇の代理、昭和天皇の皇太子時代）を猟銃で襲撃した事件です。「虎ノ門事件」ともいいます。摂政宮に怪我はなかったのですが、その犯人が現光市の立野村の代議士の息子でした。内閣は総辞職、山口県知事は罷免、警察署長に至るまで免職、駐在警察の捜査も処分されました。集落の噂話も放置すると駐在所の捜査が処分されるというので監視が厳しくなります。中央に報告された記録は「特高月報」という秘密文書に記録されていました。戦後公開されましたが細かい記述が残されています。大正10年に山口警察署の捜査を振り出しに敗戦時に下関警察署長まで出世した山本操という男が「風雪五〇年」という回顧録を残しています。いわば特高警察官の左翼弾圧史です。そこには山口県の弾圧の生々しい記録が書かれており、とりわけ下関で活動した山本利平に対する挑戦的な記録はいかに当時の特高が法など無視してひたすら左翼を押さえ込むことに力を入れていたかを如実に示しています。引き続き山本利平・山田喜一の紹介をします。

（林洋武）